

# 13市町村広域連携による 森林資源フル活用事業



会津地域森林資源活用事業推進協議会

会津森林活用機構株式会社

住友林業株式会社

株式会社アルファフォーラム

# 森林資源活用のあるべき姿

- 地域経済循環の基礎となること
- 低炭素社会実現の基礎となること
- 30年サイクルで資源は再生循環すること
- 建築用材から燃料まで、地域でフル活用できること
- ストックヤード、物流が合理的に設備され利用されること
- 利用されている森林を心のよりどころとし、誇りに思えること



# 森林資源フル活用に向けた課題

- 1000ha規模のフィールド確保のため行政区を超えた広域連携が必要
- 森林資源の継続経営は主伐再造林を中心に再検討すべし
- 上位材（A～B材）は年間丸太10万m<sup>3</sup>処す製材工場が必要
- 広葉樹林、雑木林の価値創造に「熱利用」は効果的
- 熱利用の普及加速と定着にはPPP/PFIによる「熱FIT」を開発すべし
- 新しい建材のCLT等は土木利用や輸出を含め使い道を再検討すべし



# 会津は広域連携で社会実装へ

- 会津若松市、喜多方市、湯川村、北塩原村、柳津町、西会津町、三島町、磐梯町、金山町、猪苗代町、昭和村、会津坂下町、会津美里町
- 森林面積：約25万ha
- 新規造材：約25万m<sup>3</sup>
- 人口：約25万人
- 全国波及効果：2500億円

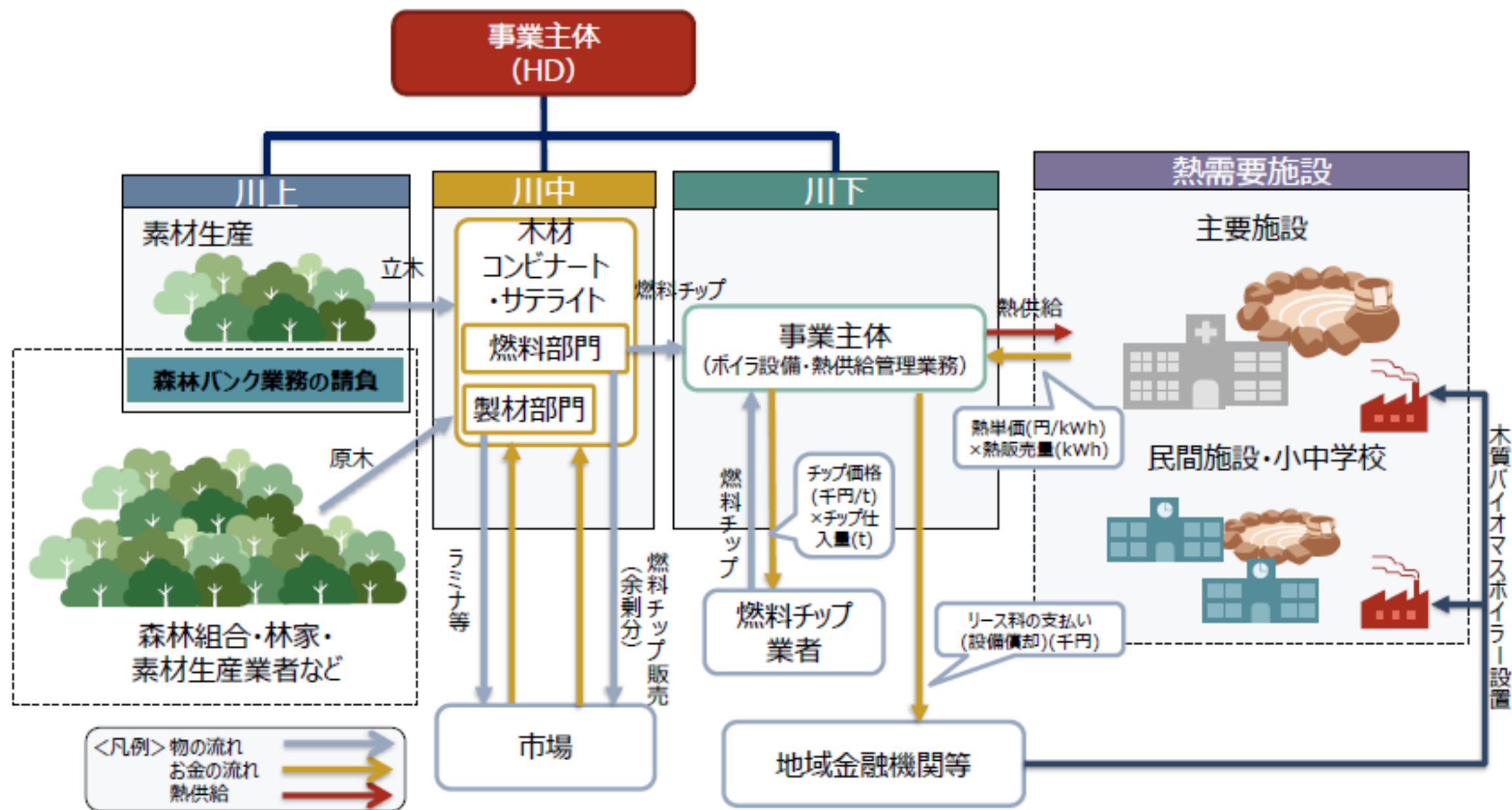


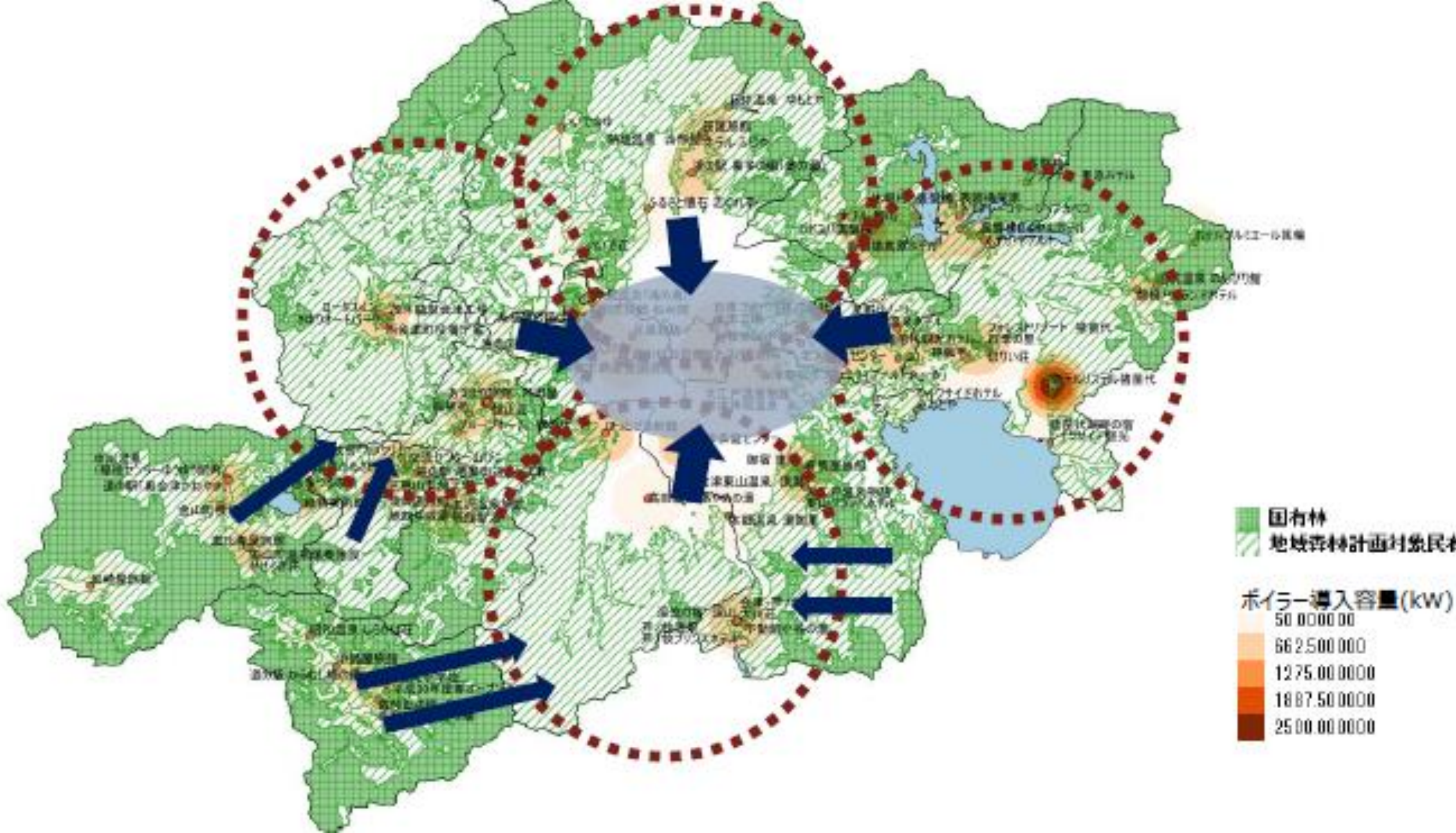
- 会津地域森林資源活用事業推進協議会で自治体と民間が一体

# 「会津森林活用機構（株）」の設立

- 設立2018年10月11日、発起人24名
- 川上～川下まで一体経営を目指す
- 13市町村の参加も定款に記載
  - 森林経営管理法への対応（川上）
  - 木質バイオマス熱供給事業（川下）
  - 確信製材/チップ供給事業（川中）







# 地域が豊かになることとは？

- 「食」と「エネルギー」の安定と、一定の「選択肢」拡大へ
- 20億円分の化石燃料（重油換算）からの脱却
  - 再生可能エネルギー、森林からのエネルギーも選択肢の一つへ
- 老後のエネルギー負担軽減の安心を提供
  - 森林資源フル活用事業への一定の関与で70歳以上はエネルギー無料化の検討
    - 事業を進めるなかで具体的な検討課題として整理





# 会津森林活用モデル・シンポジウム

Draft

2019.01.13 14時～

- 主催：会津森林活用機構株式会社
- 協賛：会津13市町村
- 場所：裏磐梯レイクリゾート
- 特別講演：農林水産事務次官 末松広行氏 他
- シンポジウム：
  - 農林水産省、環境省、林野庁、福島県、会津森林活用機構（株）、他
- 情報交換会（懇親会）：
  - 事業方針、ライブドリアード






# まとめ

- 社会的ニーズへの対応
  - 脱化石燃料、低炭素社会へ
- 創造性・革新性
  - 革新技術を背景とする主伐再造林、「新しい森林システム」と「熱供給事業」
- 実効性
  - PPP/PFIの一つの形「会津森林活用機構株式会社」を設立。地元企業と大手企業も資本参加
- 協働の実現性
  - 学識経験者、市町村を含む「会津地域森林資源活用事業推進協議会」が機能する
- 持続可能性
  - FITに頼らない新しいエネルギー事業（木材利用事業）
- 展開可能性
  - 会津が先導モデルとなり、各県で展開できる可能性大





磐梯山へ行こう！！

ご清聴 ありがとうございます